

◀ ガバナンス研究科

ガバナンス研究科 鼎談

研究科長 長畑 誠 × 修了生 柳澤 恵美子 × 修了生 長澤 興祐



長畑 現在のお仕事と研究科を志望された動機について、お話を聞かせください。

柳澤 葛飾区の観光課長を務めており、住民の皆様と観光まちづく

りという形で地域活性化に取り組んでいます。皆様とても地域を愛していて、真剣に盛り上げようとしていらっしゃるの、区の職員として自分にもっと力があればお手伝いできるが増えると考え、一から学びなおすために、働きながら通えるガバナンス研究科への入学を志しました。

長澤 私は2015年から足立区議会議員を務めています。都議会議員の秘書を務めた経験から、地域の課題や陳情対応については理解していましたが、実際に議員になってみると、議員としての知識と視野の狭さを痛感し、政治行政をアカデミックな視点で学ぶために志望しました。

長畑 ガバナンス研究科では、異なる背景を持つ学生とのディスカッションや、実践的・具体的な研究成果を取り扱うリサーチペーパーの作成など特色あるカリキュラムから学ぶことができますが、自身の仕事に役立ったことはありましたか。

長澤 党内で議論をする視点と視点が偏るため、結論の方向性がある程

度見えてしまうことが多いのですが、ガバナンス研究科での議論は多角的な視点から建設的な議論が進むので、その結果を持ち帰って発言や提案をすることができました。

また、役所の方と仕事をする際はデータを扱うことが多いのですが、リサーチペーパー作成時にデータの取り扱いについて細かく指導を受けたので、これまでより一歩深めた話ができるようになりました。

長畑 リサーチペーパーの作成では随分と鍛えられたようですね。座学での講義ではいかがですか。

柳澤 実際の仕事では本質を追及すると進みが悪くなり、理想通りにいかず閉塞的な気持ちになることがあります。学問は常に本質を追



及するため、諦めず理想に向かっていいのだと勇気づけられました。自分が直面している現実を、理想に近づけるために仕事をしているということを考えさせられる場でした。

長畑 理想というのは「世の中のみんが幸せに暮らすため」というガバナンスの原点ですね。そして一つ大切なことは「共に治める」ということです。ガバナンスの担い手は、お二人のように議員さんと役所



の方だけではなく、一般市民を含めたさまざまな方たちが関わります。**柳澤** 民間だからまちづくりに関係ないということはないですし、それぞれが協働する仲間です。企業

は利益を求める必要がありますが、企業目標に向かうことは結果として社会に貢献しています。住民や企業、NPOなどの方々全てが、区のガバナンスに関係する重要な協働相手だと捉えています。

長澤 足立区の災害・オウム対策調査特別委員会委員長を務めていますが、危機管理について検討する際に、ガバナンス研究科の授業の中で他の自治体や企業にお勤めの方からそれぞれの対応方法を聞くことができていたので、その経験を活用することができました。さまざまな人と協働することで、お互いの引き出しを増やしていくこ

とができると思います。

長畑 ガバナンス研究科としても、民間の方を巻き込むことでネットワークを広げていくことが課題のひとつで、さらに毎年受け入れている留学生を含めたいけると面白いのではないかと考えています。

長澤 私が所属していたゼミでは、海外の役所にお勤めの留学生と一緒に国連大学で授業を受けるなど交流が盛んでしたので、価値観を共有することができました。明治大学は卒業生がとても多いので、卒業後もネットワークを大切にするのとでいろいろな道が開けると感じます。明治大学出身だとわかるとす

ぐに意気投合できるあたたかさも魅力ですね。

柳澤 研究科での学びを通して得たつながりをこれからも大切にしていきたいです。先生方には今でも仕事上でお世話になることがありますし、在学中も個別の相談に親身になってくださいました。

リサーチペーパーを作成したり、睡眠時間を削ってレポートを作成したりと本当に大変でしたが、仲間や先生方に囲まれて一生懸命がんばったことは、人生を振り返った時にかけてえのない時間でした。**長畑** 本日はお二人とも、ありがとうございました。

PROFILE

柳澤 恵美子
Emiko Yanagisawa

2015年ガバナンス研究科ガバナンス専攻修了。葛飾区産業観光部で観光課長を務める。

PROFILE

長澤 興祐
Kosuke Nagasawa

2019年ガバナンス研究科ガバナンス専攻修了。民間会社、東京都議会議員秘書を経て2015年に足立区議会議員に初当選。現在二期目を務める。